



浜家連 ニュース6月号

第250号

2021年6月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836
URL <http://hamakaren.jp/>

親亡き後は？

副理事長 井汲 悦子

浜家連では、今年度、親亡き後に関連して、10月9日(土)「大人のひきこもり(8050問題を含めて)」、2022年2月19日(土)「横浜市で受けられる親亡き後の支援について」を主なテーマに市民メンタルヘルス講座が計画されている。

私の所属するさかえ会は、会員の高齢化が進み、昨年度の退会者の主な理由は高齢で介護施設に入所した、体調の具合で会に出席できない等である。会員は40代後半から60代の当事者と70代から80代後半の親がお互いに助け合いながら生活している家族が多い。そこで、今年度の例会は親なき後を中心として、生活支援センターやグループホーム、訪問看護ステーションなどの職員さんの話を聞くこと



になっている。親がいなくなった後、当事者はどう生活しているのか。上記の市民メンタルヘルス講座の計画を立てるにあたってご両親が亡くなられて一人で生活している知り合いの当事者のみなさんに話を聞かせてもらった。

Aさん・40代女性、兄がいるがほとんど行き来はない。親御さんと暮らしていた家に住んでいる。障害年金と貯金で暮らしている。リサイクル品などを利用したり、自炊を心がけたりして工夫してくらしている。区の生活教室や生活支援センター、ケアプラザなどを利用している。困ったときは、区のワーカーさんや友達に相談している。

自立支援医療と福祉パス以外の福祉サービスは受けていない。親の葬儀は兄が取り仕切った。

Bさん・40代女性、遠方にいる兄が障害年金も含めて生活全体を管理し見守ってくれている。離れているのでほとんど会うことはなく寂しく思っている。親御さんと住んでいたマンションで暮らしている。ホームヘルパー、訪問看護、後見支援室、計画相談など種々のサービスや制度を利用している。生活訓練所に登録しているが、体調が優れずあまり通所ができていない。自宅から歩いて通えるケアプラザをよく利用している。困ったときや寂しいときは様々な電話相談を利用しているが夜間や休日は相談窓口が無くて困っている。

Cさん・40代女性。兄がいるが、行き来はほとんどない。親御さんが存命中からアパートで独り暮らし。生活保護と障害年金を受けているがその他の福祉サービスは受けていない。就労移行支援B型等で仕事をしていたが、体調を崩して療養中。回復したら働きたいと思っている。生活支援センターを利用して相談にのってもらっている。親の葬儀は兄が取り仕切った。

Dさん・50代男性。兄弟はいないが叔父などの親戚が近くにいる。母の介護をしてきた。葬儀は叔父がやってくれた。親御さんと一緒に暮らしていたマンションで独り暮らし。コロナで仕事は行っていない。障害年金と親の残してくれたお金で生活している。生活支援センターの利用や

ボランティアがやっている居場所などへ参加。自立支援医療と福祉パス以外の福祉サービスは受けていない。

話を聞いた人達とは様々な活動の中で知り合った。病気の症状や障害があっても自分に合った生活を工夫して頑張っている。福祉サービスや制度を利用している人は少ない。独りになって家事ができずに相談したが、自立支援アシスタントの話は聞いたことがなかった。ホームヘルパーも何かと大変だからと入れてもらえなかったという人もいる。受けられる制度や福祉サービスをきちんと伝えてもらいたいと思う。また、たくさんの支援を受けている B さんはそれぞれの支援がば

らばらで安心した生活が送れなかった。最近、計画相談を受けるようになったので、相談できる人ができ徐々に改善してきたように聞いている。

上記の人達とは違って、病院以外、外とのつながりを持たない人や病状や障害が重い人もいる。親亡き後といっても個々によって違う。私たち親は生きていくうちに何をしたらよいのか。当事者をよく見て、声を聴いてその人に合った方向に一緒に歩き始めることが大切だと感じた。そのためには現在の制度や福祉サービスを知っていたほうがよい。市民メンタルヘルス講座にぜひお出かけください。

浜家連の動き



浜家連第13回通常総会報告

事務局 中居 武司

5月24日(月)に横浜市健康福祉総合センターで行う予定をしていた浜家連第13回通常総会でしたが、昨今のコロナウイルスの感染状況は「蔓延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が各地で発令されるなど、予断を許さない状況になったことを踏まえ、理事会で昨年同様に書面表決による採決とすることに決まりました。5月29日(土)横浜ラポール3階第1会議室で、三役5名、常任理事3名、監事1名、事務局1名計10名が出席して浜家連第13回通常総会が開催されました。

「少人数による総会」風景



<書面表決書の検証>

総会の前に特定正会員の方々から提出していただいた書面表決書の回答について、三役により検証を行いました。その結果、第1号議案から第7号議案についてすべて賛成で反対はないことが報告されました。

議案についての表決結果

特定正会員数 87名 回答数 87名(回答率100%)

	議案	賛成数	反対数
第1号議案	2020年度事業報告(案)	87	0
第2号議案	2020年度活動計算書(案) 貸借対照表・預り金(労働預り金) 別途積立金、現金貯金残高一覧表	87	0
第3号議案	2020年度会計監査報告	87	0
第4号議案	2021年度事業計画(案)	87	0
第5号議案	2021年度活動予算書(案)	87	0
第6号議案	理事・監査の退任、新任について(案)	87	0
第7号議案	議長、議事録署名人の選出について	87	0

<総 会>

中居事務局長より総会の参加者数9名、書面表決78名で特定正会員登録者数87名の1/2を超えている事から総会が成立していることが報告され、第6号議案にある通り西川 進理事を議長に選出して議案の審議が始まりました。

1号議案は大羽副理事長、2号議案は中居会計担当、3号議案は鷹野監事、4号議案は稲垣副理事長、5号議案は中居会計担当、6号議案は宮川理事長より報告・説明がありました。議案書の一部について誤りが指摘され、これを訂正することで承認を求めたところ、各議案について満場一致で可決・承認されました。

議長より、第6号議案にある通り安富 英世理事及び藤井 るみえ理事を議事録署名人に指名し、議事録に署名捺印して総会は終了しました。

今年度の総会は予定していた横浜市健康福祉総合センターでの開催から、書面表決による採決に変更になったため、皆様にご迷惑をおかけしました。短い時間にも関わらず、特定正会員の皆さんから書面表決書を提出していただきました。ご協力に感謝いたします。

書面表決書のご意見の自由記入欄には議案書の誤りのご指摘、事務局へのお礼やねぎらいの言葉が書かれていて励まされました。その他にもコロナ禍の中、感染対策をしながら無事に事業計画が実施できるよう願っています。今年こそは「浜家連の総会で久しぶりに皆さんとお会いしてお話したいなあ〜」と思っていたので残念です。などの記述もありました。

星田 信之氏が監事を退任されることになりましたが、長年にわたって快く監事を引き受けて下さっていましたことに、お礼と感謝を申し上げます。そして、新しく監事を快く引き受けて下さいました上甲 雅敬氏には今後よろしく申し上げます。

来年こそは皆一堂に会して、顔を見合せながらの総会になるよう願うばかりです。

貴重な体験談が寄せられました。



発症から医療と繋がるまでの長い道筋

息子は現在45歳です。妻は本人が35歳の時に病没致しましたので、現在は私と家族二人の生活です。本人は医師の勧めもあり、現在は某所にアパートを借り与えて別居生活を送っております。

一般的に言われる発症がいつであったかははっきり特定はできないのですが、親への嫌がらせが頻発するようになり、住宅の内装類の破壊行為等を行う事が始まったのは20歳を過ぎた頃だと記憶しております。初めの頃は反抗期の行動であろうと思っておりませんが、年を重ねる毎に状態はひどくなるので、「精神の病ではないだろうか?」と思い浮かべました。

その一方、異常と思える行動が多くなる段階でも、「精神の病ではない」との思いは後で述べる措置入院の時まで持ち続けておりました。

「精神の病であれば、医療機関と繋げなければ、遅くなればなるほど悪くなる」という話はその時にも聞いておりましたので、いろいろ手

記：U I

を尽くしても病院に連れていけない事は焦りともなり、息子との接し方にも余裕がなくなり、その事は息子の行動にも影響を与えた事と思います。結果ですが、私たち夫婦だけで医療と繋げる事は出来ませんでした。

転機が訪れたのは、それまでは家庭内の問題であったのが、エスカレートして次第に近隣の方々とのトラブルを起こすようになってきました。そして妻が亡くなって以降、行為は納まる事は無く、逆に拡大して他人様の器物破損行為で、そのままでは傷害事件となる恐れもあり、2011年、本人36歳の時に有る事件をおこし警察のご厄介になりました。

独りではどうしてよいか判らないこの時期前後に区役所に相談し、区から家族会の紹介を受け、その後家族学習会にも参加、ご縁が始まったのはこの時からです。

それ以降、私は聞いてもらう場所を得ることが出来ました。今でも、その時の出会いを感謝

しております。

その後、「措置入院」という形で医療機関と繋がることになりました。その時の医師の診断は「発達障害をベースとした妄想性障害」でした。

その後3回の入退院を繰り返しました。

2018年8月に4回目の退院をした後に病院から示された数々の退院後の生活支援を同年11月に本人は全て断り、今一人でアパート生活しております。障害年金と私からの仕送りで生活しております。社会資源の活用はあり

りません。

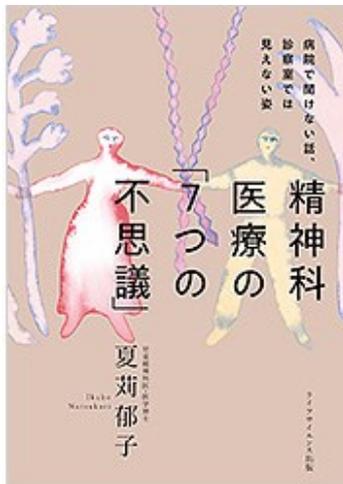
病院との関係が無くなると、障害年金の更新の時に支障が出てくることが心配ですし、

私も今年79歳になり、8050問題の当事者となる時期も近づいてきましたので、「今後どうなるのだろうか？」心配事は沢山あります。

でも、「先回りしてあれこれすることはやめよう」「物事はなんとかなるもの」と少しルーズな考えで参ろうかと思っております。・・・今までの経験でしょうか。

本を読んでみませんか

事務局 中居 武司



病院では聞けない話、診察室では見えない姿

精神科医療の「7つの不思議」

統合失調症の母をもった家族として、自身も精神科を受診した体験者として、その経験を公表した著者は、精神医でもある。公表後、全国から招かれて行った数百回にも及ぶ講演会で当事者(患者)や家族と触れあい、日常の診療だけでは分からなかった精神科医療の姿を知った。家族、患者、精神科医という3つの立場を持つ著者が精神科医療の7つの不思議を紐解くことで、これからの精神科医療のあり方を考える。

定価 1,650円 (本体 1,500円 + 税 10%)

夏苺郁子 著 児童精神科医・医学博士

発行元 ライフサイエンス出版

※精神科医療の「7つの不思議」の本は、出版元のサイエンス出版より浜家連へ謹呈として1冊届いています。

【編集後記】5月末、家に帰る道すがら今年初めてのホタルを見ました。いつもより早く、飛び交う数も多いような気がします。日がたつにつれて訪れる人の数が増え、普段夜はほとんど人が通らない道ですが、子供連れの家族や何人かで連れ立ってくる人など、密にならないか心配になるほどです。



コロナウイルスの感染者数が毎回ニュースの冒頭に流れています。そんな中、ワクチンの大規模接種やかかりつけ医、各自治体が行うものなど、ワクチン接種が本格的に始まりました。浜家連の会員の中にもワクチン接種を終えた方が増えているのではないのでしょうか。接種の予約申し込みはパソコンやスマートホンで・・・、ウー～ン、対象者は高齢者のはずでは・・・、自分で予約できる人はどれくらいいるの。息子さんや娘さんさらにはお孫さんに頼んで、やっとの思いで予約が出来たとの話もよく聞かれます。頼る人もなく、予約のできない人たちも少なからずいるように思います。なぜ高齢者の目線にたったシステムにしないのか、不思議でなりません。

2021年度の総会は昨年度と同様に書面表決により無事終了することができました。今年もコロナの影響を受けながらの運営になりますが、「元気のでる家族会」を目指し、浜家連が一丸となって事業計画を推進できたらと思います。(事務局 中居)